

仕える者になりなさい

・・・イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。彼らは黙っていた。途中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

マルコ 9：33－37。

最近、論文の為と称して「徒然草」を読み始めました。私もですが多くの皆さんは中学、高校の古文で習ったきり読んでいないのではないかと思います。改めて読んでみますと実に面白い散文であることが分かります。更に基督教の教えに照らし合わせて読んでみると古今東西の違いを問わず、人の考えることや思い、教えには共通の真理があることが分かります。例えば人と人との触れ合い、真の交わり、愛、ものの哀れ、社交術などなど徒然草に書かれている事柄は実に面白く、今日でも十分通用するものばかりです。

作者の吉田兼好は鎌倉時代後期に生まれ、俗名を卜部兼好（うらべかねよし）と言って、古くから神官職にあった貴族卜部家の出で、権力財力から言う中流でしたが、まずまずの家柄で、今風に言うなら事務次官クラスの役人に若くしてなり後二条天皇に仕え、そのまま貴族社会の中で出世していくかに見えました。ところが天皇が24歳の若さで崩御し、数年後まだ30歳前後で宮廷での出世もこれからと言う時に兼好は官を辞し出家しました。出家と言っても寺に入り住職になるのではなく、世捨て人として自由気ままに旅をしたり、隠居暮らしを楽しんだようです。そんな中で「つれづれなるままに」訳：さしたる用事もなく（退屈しのぎに）気のおもむくままに、この散文を執筆しました。ですから彼の文には仏教の影響、無常観が強く見られますが、一方貴族上がりということで非常に俗的で皮肉っぽい面も見られ兼好の人なりが読み取れます。

有名な「つれづれ・・・」は実は現代的に言うなら序文、導入です。その後いきなり本文の第一段で、兼好は出世について語っています。彼はまず天皇や特権階級にある貴族（高官）たちを誉めそやし、次に中流以下の貴族（下級官僚）を「階級に見合ったそこそこの出世〔つまり大した出生ではない〕をしては得意顔をし、本人は偉くなったつもりだが、はたから見ればなんともみじめつららしい。」と皮肉ります。故住井すゑ氏（橋のない川の作者）によれば、天皇も貴族、権力者も武力によって弱者たちを殺してのし上っていた人々に過ぎないのですが、彼らを恐れ多いと思ったり、気品あると思うところはまあ兼好が貴族の出であることを考慮すると仕方ないのですが、兼好の出家も怪しいところがあると思わされます。

しかしその後続く文が思い白い。兼好は「皇族貴族にはなりたくてもなれるものでもないが、僧侶は一般の人でもなれるし、努力次第で出世できる」としながらも「僧侶の出世とは何ぞや？」とでも言うように問いかけています。当時学徳高い名僧と言われた増賀上人の言葉を引き合いに出し、「僧侶が俗世間から高い評価を得るのは僧侶たる者として心苦しい限りで、脱俗を説く仏の教えに背いているようにしか思えない。徹底して俗世間と絶交する世捨て人のほうが、かえって理想にかなっているといえる。」としています。

これは基督教にも当てはまるのではないかと思います。元来布教活動をしなかった仏教（仏教も空海の弟子たちで高野聖と呼ばれた僧達が全国を行脚して布教して以来布教する僧侶が増えたが、どちらかと言うと日本では朝廷や有力貴族、大名の庇護の下、寺院社会を形成していた）とは違い、「救い」「教え」を広める基督教は、カトリックの修道士たちは別にして、牧師や伝道者などは世捨て人にはなれません。その違いはありますが、牧師や伝道者があまり有名になるのはやはり？マークを付けたくなります。

アメリカでテレビ伝道などで活躍した牧師の多くが色々なトラブル、スキャンダルを起こして辞めていく姿を幾度となく見ましたが、そこには名声や富によって自分を見失い、「仕える者になりなさい」というイエスの戒めを忘れ「仕えられる者」になった伝道者の姿があります。自己顕示欲＝自己中心こそ

最も警戒すべき罪です。生き方、考え方全てが神中心から自分中心になるからです。

ですから私たちクリスチャンは無名であっても、神と人に仕えることを心がけるべきです。また赤字になっても「より多くの人に福音を伝えたいから」とテレビ伝道が続けている伝道者や団体は上述の金儲けばかりのテレビ伝道者や著名な牧師とは異なり、実に尊敬に値します。

イエスは弟子たちが「誰が一番偉いか」という全くイエスの思いに逆行する会話を聞いてどう思ったでしょうか。しかもこのやり取りは、実はイエスが「自分は多くの人の救いのために、苦しみを受け、排斥され殺される。そして復活する。」また「自分の十字架を背負ってついてきなさい。」と語った後にされたのですから、さぞ落胆されたのではと思います。

その後、イエスは一人の子供を抱き上げて「このような子供を受け入れること」「それはわたしを受け入れることであり、イエスを遣わされた創造の神を受け入れること」と論じます。抱き上げるくらいですからその子供はまだ物事が分からない幼児だったろうと思われれます。幼児は地位も名誉も学歴も何も関係ない。その命は弱く危ういものです。そのような存在に対して仕える者になる、受け入れる。これこそが神の意志であり、イエスのまっとうした姿です。私達もこのようにありたいものですね。

2009年もよろしく願いいたします。

吉松 純

参考文献：

吉田兼好、徒然草、三木紀人(みきすみと)全訳注、(1982)東京：講談社学術文庫

吉田兼好、徒然草、ビギナーズ・クラシック 角川書店編(2002)東京：角川ソフィア文庫

矢沢永一、知識ゼロからの徒然草入門(2006)東京：幻冬舎

日本語礼拝は毎週午後3時から礼拝堂で守っています。

- 1月 4日：礼拝、聖餐式、Jr.教会「新年の約束について学ぶ」
- 11日：礼拝、Jr.教会、習字「今年の聖句」
- 18日：礼拝、Jr.教会、聖句カルタ
- 25日：礼拝、Jr.教会、聖句カルタ
- 2月 1日：礼拝、聖餐式、Jr.教会、節分

感謝：

*12月24日クリスマス礼拝、28日に祝会が持たれ楽しい時を持ってました。感謝いたします。

*クリスマスのカード、献金を感謝いたします。毎年、特別献金を始め献金の額は年次総会レポートに記載しています。総会レポートが必要な方はご請求下さい。

報告：

去る1月4日、教会の前の道で強いガス臭がした為、警察と消防に連絡したところ、教会と周囲20軒以上の居住者が一時避難勧告を受け、地域から退去し臨時の避難所や知人宅に緊急避難し、道路も東西南北周囲1キロ以内を全部封鎖するという大事成りました。午後1時半過ぎからおよそ8時間にわたり、消防と公共事業所がガス漏れの原因を調べ、破損したガス管を修理し、その間、非難した住民(吉松牧師夫妻も含む)は帰宅できませんでした。

その為、日本語礼拝も中止となりご迷惑をお掛けしました。また礼拝を始めたばかりの韓国人教会も礼拝中に強制退去となり、新年早々から、思いもかけないような事態となりましたが、ガス漏れの原因も突き止められ、ガス管の修理も終わり、教会も翌日から平常な運営ができるようになりました。3台の消防車がいざと言うときの為に消火栓を開けて待機するほどのガス漏れでしたが、爆発や火災など何事もなく、住人もみな戻れたことを感謝いたします。

避難中、私(吉松)はインフラが全て完備され、ひねっただけでお湯が出るような先進国アメリカでもこのような不慮の事故があるかもしれないことを改めて認識し、同時に家に帰りたくても帰れない人々が何万人もいる現状は、こんなものではなく、もっと過酷であるだろうと察し、思いを新たにしました。私たちは今与えられている環境、日々の暮らしにもっと感謝し、持てる者はもっと恵まれない環境にいる人々と持っている物を分かち合わねばならないと思わされた経験でした。

御協力お願い致します。献金のあて先はUMC-JAとし、
寄付のあて先をNoteに記してください。

*サマーキャンプの為

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご
協力をお願いいたします。

*消印のついた切手の周り1センチの余白を残して
切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医
療協力会(JOCS)に送ります。JOCS海外
に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をし
ています。

*ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さん
為に特別献金をしています。ご協力下さい。

*パターソンのSt. Philip伝道と社会福祉
団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソ
ジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと
路傍伝道をしています。

教会の住所：

The Church of the Good Shepherd, UMC.
326 New Bridge Rd. Bergenfield, NJ 07621

英語オフィス(201) 385-4100

ホームページ：<http://umc-japan.org>

牧師館：(201) 338-2744

吉松牧師 junyoshim@optonline.net

教会学校担当：吉松 泉姉

izumi.yoshimatsu@gmail.com

Happy New Year!